

交流と絆

御厨小学校体育館で行われる練習には、大人、小中学生、毎回百人前後の人が集まります。練習中は誰もが真剣そのもの。10分間の休憩時間には、大人も子どもも入り混じって、話したりじゃれあったりして和やかな雰囲気があります。



親子参加

2世代で練習に参加している親子が7組います。お父さんが蛇方衆として頑張っている姿を見てその影響を受け、自分から入りたいと思った子ども。親が蛇踊りの魅力を知ってほしいと子どもに勧め、親の勧めで参加した子ども。子どもが参加したいと言うから今年から一緒に入ったという親子。参加理由はさまざまですが、親子で参加することで共通の目標ができ、共通の話題が増え、親子の絆も一層深まっています。

異世代交流

独身者である若者と子どもとの交流は難しく、大人同士であっても仕事や世代が違えば、顔を合わせ話をすることはほとんどありません。そんな中、御厨小学校体育館では小学1年生から中学2年生の子ども約80人と20代から40代の大人約20人が集まり、練習をしながら交流を深めています。

また、練習が終わりに近づく8時を過ぎると、保護者が子どもを迎えに集まり始めます。自然と保護者同士や蛇方衆と保護者との会話も増えていきます。

活動することによって、練習に参加する人ばかりでなく地域の人や

一緒にできる喜びを

感じています

蛇方衆

山本さん親子

(御厨・御厨雇進)



学まなぶさん(30)

子どもが入りたいと言うので、自分も子ども時代には蛇方衆として参加していたということもあり、今年から一緒に入りました。家でも子どもと一緒にモップ片手に練習し、蛇踊りの話をよくするようになりました。親子の会話が増えましたね。

海かいや哉やくん(9)

友だちが楽しそうに練習しているのを見て入りたいたいと思いました。お父さんと一緒にできてうれいんです。お父さんたちが大きい蛇を担いでいるのを見てかっこいいし、すごいなと思います。自分もお父さんみたいになりたいです。ずっと一緒にしたいと思います。

特集 郷土芸能

異世代の人と話す機会が増え、交流の輪はさらに広がりを見せています。

健全育成

大人たちが子どもたちに対して行う指導は、厳しい中にも愛情が感じられます。子どもたちも大人の指導に真剣に耳を傾けています。

「蛇踊りを通して子どもたちに蛇踊り自体の魅力を知ってほしいのはもちろんですが、代々伝わる郷土芸能を守っていくこうとする思いやふるさとを大切に思う気持ちを伝えたいと思つて接しています。子どもたちに直接話しはしないけれど、そういうものは自然と伝わるものでしょう。また接点がない人が交流することで、顔見知りになり、例えば、子どもたちに道で会ったときにも互いに声を掛け合うようになるし、私たちも子どもたちに関心を持つようになりま

す。親同士も話す機会が増えてくるでしょう。健全育成ということを意識しなくても、自然と地域で子どもを育てる形が出来上がっていくのではないのでしょうか」と話す武辺会長。子どもたちへの継承活動は、さまざまな世代の人と触れ合うことで、子どもたちの伝統を大事にする心や意欲、そして地域への愛着心を育みながら、子どもたちの成長に大きな影響を与えています。

郷土芸能を

継承することで、

多くのものを得ています

御厨蛇踊り保存会会長

武辺 健一 さん

けんいちろう

(御厨・池田上、37)



仲間も増え、とてもいい雰囲気の中、練習に励んでいます。郷土芸能「御厨蛇踊り」を継承していくことは、同時に人との絆を深め、ふるさとを思う気持ちを強くするなど、多くのものを得ることができます。

保存会の活動がさらに大きな広がりを見せ、御厨蛇踊りが地域にもっと浸透してくれるといいですね。

郷土芸能は、それを守り受け継ぐ人々によって地域のつながりを強くし、絆を深める大切な役割を担っています。地域でのコミュニケーションの希薄化が問題視されている現代だからこそ、私たちは郷土芸能を愛し、守り継がなければいけません。そうすることで郷土を愛する気持ちや地域の絆はいつまでも受け継がれていくことでしよう。

